

公益社団法人高知県森と緑の会 発行

平成29年4月1日

森と緑の会だより

TOPICS

特集：「森のようちえん」で見守り☆引き出す子どものチカラ！

平成28年度実績報告

・緑の募金事業

・こうち山の日推進事業

・森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業

2017

春号

表紙の写真：「森の教室 どんぐりくんと森の仲間たち」

私たち日本人が昔から森林と深くかかわり生活してきたことや森林の持つ役割や働きを伝える全国巡回型の「森の教室」を高知県で初めて実施しました。詳しくは、裏面をご覧ください。

森は子どもの育ち場 「森のようちえん」で 見守り☆引き出す子どものチカラ！

3月5日(日)に「森のようちえん」シンポジウムを実施しました。午前は講演と座談会、午後は「森のようちえん」体験会を行い、大人・子ども合わせて119人にご参加いただきました。



鳥取県智頭町に移住し「田舎でしかできない教育を」と思っていた西村さんと近所に住んでいた熊谷さんたちお母さん仲間で立ち上げた「まるたんぼう」。

西村さんに「森のようちえん」の魅力についてお話いただきました。その一部をご紹介します。

写真：右：西村早栄子さん（鳥取県智頭町森のようちえん まるたんぼう理事長）左：熊谷京子さん（空のしたひろば すぎぼっくり園長）
まるたんぼう：<http://marutanbou.org/>

★まるたんぼうの毎日～園舎がない・日課がない～

森林率 93%の智頭町に 14カ所のフィールドがあります。毎朝子どもたちと、今日遊ぶフィールドを決めるところから1日が始まります。春は桜並木の下をお散歩、夏はヤマメの棲むキレイな川で水遊び、秋は紅葉や落ち葉の音・感触を楽しみ、冬は雪遊びをします。週に1回の「お料理の日」には、白いごはんとお味噌汁作り。野菜を切るのも、薪を割って火をつけるのも、すべて子どもたちで行います。

通い始めて最初に変わるのが転び方です。2週間ぐらいで受け身ができるようになり、転んでもさっと立ち上がるたくまさが身につきます。夏の暑さや冬の寒さにも強くなり、病気にかかりにくくなるのも体ができてくるからです。毎日森に行くのは過酷なこと。泥だらけになったり寒さに凍えたりを繰り返すことで、簡単に折れないしなやかな心が育っていきます。同じ仲間ですべて森に行くうちに連帯感や仲間意識が生まれ、子どもたち同士で助け合い励まし合うという光景がよく見られます。

子ども一人ひとりの感性が違えば、その日の気分も違います。一斉保育では早くできた、上手にできたと優劣がついてしまうけど、「まるたんぼう」ではそれぞれが得意なことやその日やりたいことをするので、みんなで同じことをすることはほとんどありません。大人は指導者ではなく共感者として、子どもたちの出会う感動と一緒に心を震わせます。そうすることで、子どもは認められていると感じ、大人への安心感や信頼感を育みます。

子どもたちの自主性を尊重しますが、命に関わる大切なことや重要なことが起きた時にはじっくりと話をします。自分の荷物を管理することもルールで、子どもたちは自由と責任を学びます。

★森で育つ創造力・コミュニケーション力

森は毎日違います。少しずつ大きくなる葉や色濃くなる紅葉。川の水や空気が段々温かくなり、また冷たくなるという日々の変化を子どもたちは体で感じています。幼児期に五感が一番発達すると言われていますが、森の中での時間が与える影響は大きいです。

お花のアクセサリや葉っぱアートを子どもたちの自由な発想で作るので創造力が伸びます。そして、一番伸びるのがコミュニケーション力。おもちゃの消防車は誰が見ても消防車で、言葉がなくても遊べます。でも、1個の石を消防車に見立て遊ぶには、いろんな言葉を掛け合わないと同じイメージを共有できません。こういう遊びを繰り返すことでコミュニケーション力がつきます。

★見守る保育～お口チャック・手は後ろ～

「危ない・汚い・ダメ・早く」など子どもたちを抑制する言葉は極力使いません。大人が先走って「あそこにきれいな花が咲いているよ」と言うのもNGで、子どもたちがそれを発見する喜びを味わってほしいと思っています。

そして、一番大切にしているのが、子どもの育ちを信じて待つこと。子どもには自分で育っていく力があります。手を差し伸べるのをグッと堪えて見守っていると、四苦八苦していた子どもが何とかやり遂げて達成感を味わいます。子どもは見守られることで自主性を伸ばし、子ども同士で助け合うようになります。そして何より、子どもの力を信じて待てるようになると、大人の子育てがすごく楽になります。



【座談会】森のようちえんを語ろう

後半は、高知で「森のようちえん」活動を行っている方々も加わり、座談会形式でお話いただきました。その一部をご紹介します。

写真：（左から）熊谷京子さん、西村早栄子さん、内田泰史さん（内田脳神経外科理事）、浜氏拡さん（アジロ山の自然と環境を守る会副代表）、岡林道生さん（若草幼稚園元園長）

内田先生 森で遊ぶ子どもは病気にかかりにくいという話がありました。同じように手洗い、マスクをしても病気になる子とならない子がいるのは免疫力の違いです。毎日森に出かけると暑さ・寒さに耐える力がつき、運動により体温が上がるので免疫力が強くなり、病気にかかりにくくなります。

岡林先生 子どもたちが自分から働きかけて遊ばない、表情が乏しいなどが気になっていました。その子どもたちを自然に連れ出すと表情が豊かになり躍動的になる姿を見て、もっと連れ出したいと思いました。自然の中で子どもたちは色々なことに挑戦するようになります。大きい子が岩山に登ると、小さい子も登りたがりますが誰も手伝いません。これ以上無理と思ったら諦めます。力以上のことをすれば生命に関わることを知るからです。森に行くたびに挑戦は続きます。岩山の上から「そこに足をかける、しっかりつかめ」と助け合い、努力します。森の中では助け合わないと生きていけません。子どもたちには生きる力を身につけ、自分も相手の命も大切にしたいと思います。

内田先生 脳科学的に言えば、人間の脳細胞の発達は0歳から3歳頃までに7～80%が完成し、その先はあまり伸びません。運動能力や感性も3歳までに完成するので、家の中に閉じ込めずできるだけ自然体験させてあげるといいです。知識を覚えることはいくつになってもできます。環境も大事です。子どもは体験したことを知って欲しいと話しますので、家族はそれを感動して聞いてあげてください。すると、子どもの感性・知性はどんどん伸び、親子の対話も増えます。

西村さん 字が読める子と読めない子の絵本の世界は全く違うと思います。字が読めるようになると、読めない世界には戻れない。だから、早くから字を覚えさせようとせず、絵からいろんなことを空想する時期を大切にしたいです。まるたんぼうの子たちは、日々の体験から森の空気感や匂いまでイメージしていると思います。

岡林先生 言葉や内容を頭の中でイメージできれば、長い本でも子どもたちは退屈しません。自然の中で遊んだ経験を絵本や本に重ねると、子どもたちはより豊かで賢くなります。初めて出会うことに興味関心を持つ子は、小学校になっても先生の話すをすごく吸収します。もっと知りたいと思うことが学ぶ力になります。

西村さん 中1の子と地球の自転の速度についての話をしていたら、小1の子が「それって地球を半分に切って周りの長さを測って、（1日が24時間ということは私が教えました、）それを24で割ったら1時間に進む距離がわかるんじゃない」と言ったのにびっくりしたことがありました。その子はまるたんぼうでの体験から、丸いものを半分に切ると一番長いところがあると感覚で知っていたのでしょうか。森での経験が勉強の基礎となり、興味のあることを吸収する。それが、知的好奇心につながると思います。

ご登壇いただいた皆さま、すばらしいお話をありがとうございました！

森のようちえん ★自然の中で思いっきり遊ぼう！

高知市の「アジロ自然の森」で、月1回ペースで「森のようちえん」を開催しています。森の中で散歩、岩登り、ロープ遊び、絵本の読み聞かせ、子どもたちは全身で森を満喫します。是非、遊びに来てください♪

3月5日「森のようちえん」体験会



岩登り、
できるもん！

風を感じて、
たのし〜い♪



どんぐり見〜つけた！



木に親しみ★心ゆたかに 木のおもちゃにふれあう事業

高知県産材で作った木のおもちゃを保育園や幼稚園に3カ月間貸し出しています。配達した日から、子どもたちは大はしゃぎです。

平成28年度は12の園に貸し出し、982人の子どもたちが遊びました！



イベント貸し出し♪

越知町のキャラクター「よこじロー」
も木のおもちゃで遊びました♪

2017.2.24 こうち環境博 2017



見る・におう・さわる・感じる・安心する

貸し出した保育園・幼稚園からの感想！

- ・全身で木の感触を味わっていました。一人で積木に没頭したり、みんなでドミノで遊んだり、発達段階で楽しみの違いが見られた。
- ・保護者が「木のおもちゃ」を見て感激していた。木のぬくもりが感じられるものを子どもに与えたいという気持ちが伝わってきた。
- ・置いているだけで木のいい香りがして、安らげる空間になった。

数日間貸し出し可能な木のおもちゃがあります。お気軽に、会場までお問い合わせください。

緑と水の森林ファンド

平成 28 年度は、地域の森林整備、森のようちえん、森林インストラクター養成講座、木育インストラクター養成講座等を実施しました。

おおなる園桜の治療再生事業

11 月 13 日（日）に高知緑と水の会、高知県緑サポーター会、桜ライオンズクラブの 3 団体で、高知市福祉牧場おおなる園の桜のテングス病の治療や施肥、ウメノキ苔の掻き落とし、桜の植樹等を行いました。



学校緑化整備事業

須崎市立新荘小学校の図書室に置く机やベンチ、棚を夏休みに親子で作りました。木のぬくもりあふれる図書館となり、利用が少なかった子どもたちも毎日利用するようになって読書量が増えました。



緑の広がり地域を元気に！

「緑の募金」による植樹活動

地域を活性化させる植樹活動を支援するために、毎年「緑の募金」で苗木支援を行っています。平成 28 年度は、高知県内 32 力所に 638 本の苗木を支援しました。平成 29 年度は、10 月頃に募集する予定です。



平成 28 年度緑の募金公募事業

一般公募により、森林ボランティア団体等が実施する事業に交付金を助成しています。
平成 28 年度は、「森林の整備」3 団体、「緑化の推進」5 団体により事業が実施されました。

森林の整備

山林保全育成事業

(仁淀川流域山林保全育成の会)

清流仁淀川上流域の水源涵養機能を高めるために、越知町黒森山の皆伐地 1ha にヤマザクラやモミジなどの広葉樹 1,050 本を植樹しました。植樹には、仁淀川の上流から下流の市町村関係者や活動に賛同した企業など総勢 85 名が参加しました。自然萌芽を生かした森づくりは今回で 10 回目を迎え、これまでに計 11,410 本が植樹されました。



緑化の推進

樹木板設置活用等事業

(ネイチャークラフト研究会)

気軽に観察できるフィールド整備として、高知県森林総合センター内の樹木調査をし、221 種を確認。その中で多くの人の目に触れる箇所、特徴のある樹木、希少な樹木について樹木板 210 枚を作成し設置した。また、県内の里山で見られる基本的な樹木について、エリアを指定して樹木学習板 33 枚を作成・設置した。11 月 20 日には樹木観察教室を実施し、樹木板を活用して解説を行った。(参加者 25 名)



平成 28 年度に実施されたその他の事業

	事業名	実施団体
森林整備	大野見島の川渓谷景観づくり事業【初】	島の川修景緑化委員会【初】
	松林再生事業【平成 29 年度採択】	脇地常会
緑化推進	さおりが原再生事業	三嶺の森をまもるみんなの会林保全育成の会
	森の木で作った楽器で子供が音楽会をひらくプロジェクト	木と音の会
	森林と木材加工の先駆技術現場で木材利用やエコ環境を見直す【初】	高知緑と水の会
	杉原神社旧表参道案内板設置事業【初】	横倉山自然の森博物館友の会

平成 29 年度に実施予定の事業

	事業名	実施団体
森林整備	山林保全育成事業	仁淀川流域山林保全育成の会
	森の再生手法の検証 モニタリング調査と啓発活動	物部川 21 世紀の森と水の会
緑化推進	樹木板設置活用等事業	情報交流館ネットワーク
	波川・木漏れ日の道敷策道整備【初】	波川公民館【初】
	en～灯りと自然と音楽と～2017【初】	いの町観光協会【初】

※緑の募金公募事業は、毎年 10 月から 11 月にかけて一般公募し、翌年 2 月の審査会で採択された事業を、4 月から 11 月にかけて実施します。詳しくは、当会ホームページをご覧ください。

こうち 山の日 推進事業

こうち山の日推進事業は、高知県森林環境税を活用した補助事業です。平成 28 年度は、体験ツアーや森林学習イベントの開催、山の日一日先生派遣など 36 事業が行われ、のべ 13,915 人が高知の豊かな森を守り楽しむ取り組みに参加しました。

平成 28 年度に実施した事業の一部をご紹介します！



大月町備長炭生産組合「大月町の製炭学習と里山への植栽活動“ウバメガシと製炭業”」

大月町で、里山ウォーキング、苗木の植栽、備長炭について学ぶ実地体験型の事業が開催されました。大勢の高校生が参加し、自然と親しみ、地元の方と交流しました。

情報交流館ネットワーク「山の1日先生派遣事業」

学校の要望に応じて山の学習や木工体験等を行う「山の1日先生派遣事業」。今年度は 56 カ所の小学校や保育園等で 2,839 人が参加しました。写真は、高知市立泉野小学校 6 年生の親子木工体験。卒業式に飾るためのプラントーを作り、完成した作品をみんなで見せ合いました。



森林保全の大切さや木材利用の重要性を学びました！

平成 29 年度「こうち山の日推進事業」

募集期間：4 月中旬～5 月末（予定） 事業実施期間：7 月上旬～翌年 1 月末（予定）

詳細については、随時当会のホームページ等でお知らせします。

森林・山村多面的機能 発揮対策交付金事業

平成 25 年度から始まった林野庁の国庫金事業で、里山林と地域住民をつなげることを目的としています。

平成 28 年度は 67 団体が採択され、里山林の保全管理や竹林の整備、森林環境教育等、地域の活性化を目指した取り組みに活かされました。

平成 28 年度に実施した事業の一部をご紹介します！



はたのおと探求部（幡多地域の団体）

幡多地域の研究と実践をつなぐ学びの場「研究会はたのおと」。その中でフィールド実践活動を行っているのが探求部です。地域内外の若手有志が集まり、山や川の保全活動に取り組んでいます。キーワードは「流域再生」。流域がもつ豊かな森林の可能性とは？ 若いパワーで探求しています。

白木谷ゆめクラブ（南国市の団体）

竹林整備からタケノコの加工まで、地域住民が力を合わせて活動しています！！

平成 29 年度「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」

募集期間：4 月上旬～4 月末（予定）

活動開始：6 月上旬から（予定）

緑の募金にご協力いただきありがとうございます

平成28年（平成28年1月1日～12月31日）募金額

11,413,775円

皆さまから寄せられた募金は、地域の緑化や県内各地の森林整備等に役立てられています。



森の教室

どんぐりくんと森の仲間たち

森の働きや大切さを勉強した後にどんぐり蒔きをして、身近な森づくりのお手伝いをしました！



ファミリーマートの店頭募金「夢の掛け橋募金」の協力で国土緑化推進機構が全国で実施する「森の教室」を高知県で初めて実施しました。美良布保育園、片地保育園、大栃保育園、大方くじら保育所、ちより保育園の園児325人が参加してくれました！

森の楽しさを伝え、学ぶ
「森づくりのキャラクターショー」



どんぐり蒔き



「君たちに伝えておきたい
日本の原風景 1枚の手紙」の朗読



どんぐりくん・エコロンと踊る
オリジナル「森の体操」



春の「緑の募金」キャンペーン

毎年3/1～5/31は春の緑の募金強化期間です。緑の募金にご協力をお願いします！

緑の日チャリティーヨガイベント2017



昨年のイベントの様子

毎年、土佐ヨガさんが実施してくださっています！

是非、ご参加ください！！

日時：4月30日（日）13時～

場所：高知ピポット

（四国ガスショールーム2階）

※参加費は寄付システムです

賛助会員募集

皆さまからの会費は、当会の大切な活動資金となります。森づくり活動や緑化の推進、次世代を担う子どもたちに緑の大切さを伝える活動にご協力をお願いいたします。

【年会費】 個人 3,000円から
団体 10,000円から

※会員様には、森と緑の会だより、ぐりーんもあ、イベントのご案内等をお送りさせていただきます。

※当会は特定公益増進法人に該当します。賛助会費や緑の募金にご協力いただきますと、特定寄付金として税制上の優遇措置が受けられます。

発行

公益社団法人高知県森と緑の会

〒780-0870 高知市本町5丁目1番50号中沢ビル4階

電話番号 088-855-3905 FAX 番号 088-855-3906

Email: info@moritomidori.com URL: www.moritomidori.com

当会ホームページ
QRコード →
イベント情報などを
随時お知らせします

